

**平成28(2016)年度  
研究、教育、社会・学会(研究会)活動報告書**

## 1. 研究(本年度のみ)

教員氏名 (ローマ字)	近藤 汐美 (Shiomi KONDO)	職 位	講師	学 位	博士 (商学)
専門分野		財務会計論			
研究課題	テーマ	企業情報開示の拡充に伴う会計システムの信頼性に関する 制度・理論研究			
	概要	会計システムによる企業情報開示のあり方について社会システム理論 を分析手法として用いた新たな示唆を提示することを課題とする。			
本年度 研究業績	研究テーマ	会計システムと信頼性についての社会学的分析			
	経過と到達点	学会報告を基に論文に纏める作業を進めている。			

## (1) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
①単著書				
②共著書	『財務報告論』	2017年 3月刊行予定	中央経済社	企業活動について有価証券報告書 を用いて理解し、財務諸表分析、 企業価値評価ができるようになる ことを目的とした著書である。
③単訳書				
④共訳書				

## (2) 論文等

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
⑤査読付 論文					
⑥紀要論文					
⑦研 究 ノート					
⑧翻 訳					
⑨資 料					
⑩調査報告					
⑪被引用 (他文献)					

(3) 第三者（文部科学省、経営団体、企業 等）により認証された研究

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑫単独研究				
⑬共同研究 (代表)				
⑭共同研究 (代表以外)				

2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
教育内容・方法 の工夫	講義		会計学 I
	演習		ゼミナール I
	実習		
	◆ 講義科目 会計学の全体像を理解し、重要な考え方を伝えられるように心掛けた。問題演習等の時間には、教室の中を周り学生の習熟度の確認を行い、授業内容の進捗の調整を行った。来年度は、会計学入門という独立した科目として、より学生の興味関心に応じた内容を講義に盛り込みながら進めていきたい。		
	◆ 演習科目 会計学の役割の理解することに重点を置き、学生の意向に応じながら進めていくことに努めた。具体的には、各自興味がある業界の財務諸表を用いて財務分析を行い、実践的に会計学に触れる機会を増やした。ゼミの最終授業ではゼミ内プレゼン報告会を開催し、ゼミ生同士で質疑応答を行った。ゼミナールを通して学生の就職活動・編入に向けた意欲を喚起することに役立てることができたように思う。		
	実習科目 ◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。） 財務報告の観点から企業活動について有価証券報告書を用いて学び、会計学への理解を促すような会計教科書を共著で作成し、2017年3月刊行予定である。		

### 3. 社会・学会（研究会）活動 等（本年度のみ）

#### （1）社会活動

分 類		活動・講演の概要
①地域研究活動	代表	
	理事	
	幹事	
②講演（教育機関・企業等）	学外	
	学内	
③シンポジウム等の企画（教授会承認事項／1本）		

#### （2）学会（研究会）活動

分 類		活動・講演の概要（時期）
④学会運営	代表	
	理事	
	幹事	
⑤学会報告		経済社会学会東部部会（於 早稲田大学）自由論題報告 2016 年 5 月 国際会計学会第 33 回研究大会（於 関西学院大学）自由論題報告 2016 年 8 月 経済社会学会第 52 回全国大会（於 麗澤大学）自由論題報告 2016 年 9 月
⑥司会・コメンテーター		
⑦第三者認証研究会 運営		
⑧第三者認証研究会 報告		
⑨一般研究会 運営		
⑩一般研究会 報告		
⑪本学経営情報学会 報告		2017 年 3 月に開催される学会にて報告予定。

### 4. 特記事項（本年度のみ）

--